

切除不能進行胃癌に対する Conversion surgery の予後に関する検討

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、第 125 回日本外科学会定期学術集会にて医学研究として発表いたします。対象となる患者さんでご自身の診療情報の研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

研究期間： 2012 年 1 月～倫理委員会承認日～2026 年 3 月 31 日

【研究の目的・意義】

Conversion surgery とは、根治切除不能と判断した進行胃癌に対して化学療法を行い、腫瘍の縮小が得られた後に根治切除を目指して行われる手術のことです。化学療法の進歩とともに Conversion surgery が行われる患者さんが増えていますが、その適応・効果については一定の見解はありません。当院では、根治手術不能と判断して化学療法を導入し、縮小効果を認めた患者さんには積極的に手術を行っています。当院における Conversion surgery の治療成績、意義について検討します。

【対象となる方】

初回診療時に根治手術不能と判断した患者さんのうち、化学療法を導入し、2012 年 1 月から 2024 年 9 月までに化学療法後に原発巣を切除した患者さんを対象としています。

【研究機関名及び研究責任者（情報の管理について責任を有する者）】

りんくう総合医療センター 消化器外科 古川 陽菜

【調査項目】

患者背景、化学療法内容、R0 切除可能割合、周術期成績、術後再発、予後

【個人情報保護】

この研究に関わって収集される情報・データ等は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱います。患者さんのお名前など個人を特定できる情報が明らかになることはありませんのでご安心ください。

この研究について、わからないことや聞きたいこと、何か心配なことがありましたら、お気軽に下記の連絡先までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

りんくう総合医療センター 消化器外科 古川 陽菜

泉佐野市りんくう往来北 2-23 電話：072-469-3111 FAX：072-469-7929